

プロジェクト名

カンボジアにおける教育の質向上プロジェクト

I. 教員能力開発支援

1) 教員養成大学の支援

目的:

1. 貧困農村地域の教員研修生が故郷に帰って優秀な教員となり、地方から優れた人材を輩出し続けるようになること。
2. 教員研修生の学習環境が向上し、勉学に集中できるようになること。
3. 読む、書く、話す、といった読解リテラシー能力を向上させ、将来教員となるために必要な基礎能力を高めるためのカリキュラムを開発する。

背景:

1. 教育青年スポーツ省(MoEYS)は2019年度より、教育改革の一環として、全国の公立教員養成所(小学過程16箇所、中学過程6箇所)を、2年制から4年制への再編を開始した。しかしシステム再編にかかる教官の技能アップデートが遅れており、現在プノンペン教員養成大学(P-TEC)とバットアン教員養成大学(B-TEC)の2校のみ4年制大学コースが開始されているが、未だ2年制教員養成も並行して運営されている状態であり、他の教員研修校においての4年制への移行の見通しは立っていない。
2. 地方出身の教員大学生は、寄宿生活をしながら通学しており、カンボジア王国政府からは、月額4万リエル(10米ドルに相当)が支給されているが、日常生活を維持するのに十分な額ではない。大学には地方出身の学生用にドミトリーが併設されているが、全寄宿生活希望者の半分のキャパシティーしかなく、学生は3年に進学すると、政府からの支給増額がないまま、ドミトリーを出て学生生活を継続して行かなくてはならない。生活を維持しながら学業に集中していくのが困難な状態である。
3. 2018年にJICA無償資金協力による新校舎増設が完了し、図書館や音楽室等が新設されたが、施設や備品の管理や指導システムの技術移転が追いついておらず、学生たちが十分にファシリティを活用できていない。
4. 将来教員となる学生たちの能力レベルが懸念されている。「生徒の学習到達度調査(PISA)」は、OECDが2000年から3年ごとに加盟国を対象に実施している国際比較テストであり、義務教育終了段階の15歳児(日本では高校1年生)が持つ知識や技能を実生活の様々な場面にどれだけ活用できるかを評価するものである。ASEAN諸国からは、先行国のシンガポール、ベトナム、タイ、マレーシア、インドネシアが参加。後発国からは2016年よりカンボジアが唯一、途上国枠で新設されたPISA-D(Pisa for Development)グループでエントリーされている。PISAの中で、読解リテラシーは「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考し、これに取り組むこと」と定義されている(PISA2015)。これは読解リテラシーが学力の向上の基礎となることを示唆するもので、カンボジアにおける教育の質の向上を通じた教育の発展に不可欠な能力である。2017年のPISA-Dテストにおいてカンボジアの生徒の読書パフォーマンスは、他の数学と科学のスコアに比べ、PISA-D平均(346スコアポイント)を大幅に下回っており、設定されている最低レベルに達した生徒は、シンガポールの生徒の90%近くが達しているのに対し、カンボジアは全体の僅か8%という

プロジェクトの背景と目的

結果であった。PISA-D2017 の結果をまとめたカンボジア教育省の報告書では、過去の OECD 加盟国と ASEAN 諸国の結果から数学と科学のパフォーマンスの向上は読書のパフォーマンスの向上と強く関連する傾向があり、学生の読書リテラシーの向上が他の科目の学生のパフォーマンスに反映する、と結論づけている (MoEYS, Education in Cambodia, Findings from Cambodia's experience in PISA for Development, 2018, P-28)。

5. キズナでは、リテラシー能力開発の専門家と、教員養成大学教官、教育青年スポーツ省品質管理局(Department of quality assurance)、および、かつて奨学金を提供し、現在は地方の学校で活躍するアルムナイ校長達と共に、教員研修過程用のリーディングリテラシー能力開発のためのカリキュラムを開発。2021 年末に教育青年スポーツ省より、正規の教養過程の中で 1 単位(45 時間) のカリキュラムとして承認を得た。その後、教員養成大学 2 校の教官 14 名 (各大学 7 名) への研修と、履修前学生全員 500 名を対象としたベースライン調査を経て、同 2 大学でのパイロット授業が開始されている。

2) アルムナイ教員による教育活動支援

目的：

1. 教員養成校卒業生 (アルムナイ) に対するアップグレード研修、およびアルムナイによる、教育活動および研究発表会を支援することで学校教員の技能向上を図る。
2. アルムナイ教員による学校とコミュニティとの関係強化活動を支援することで、より民主的で持続可能な学校教育環境の構築を目指す。

背景：

1. 2004 年から 2020 年までに日本財団が実施した教員養成校奨学金の受給教員 2,433 人が、僻地の学校を中心に活躍している。教員養成所を卒業後、政府による公的予算を投じた教員へのアップグレード研修は行われておらず、都心の開発が進む一方で、地方の学校との教育環境格差は年々拡大する一方である。
2. 2019 年度の統計では、全国に 1,739 の中学校と 525 の高等学校が登録されており、小学校数 (7,228) に対して不足していた中学・高校の数も、カンボジア政府が目指した「全ての町 (commune) に中学校、すべての区 (district) に高等学校」という、数の上での目標は達成された。その一方で、保護者の教育に対する理解は未だ低く、学校を中退し、家庭の生活を支える労働力として駆り出されるケースが多い。小学校入学時には 434,600 人いる児童数が、中学入学時には 247,024 人、高校入学時には 128,693 人と右肩下がりに半減し、高校卒業者数においては、小学校入学者数の僅か 18% の 79,052 人という状況で、高学年になるにつれ就学率の低下が顕著である (Education Indicators, 2017/2018)。また、Kizuna が実施した教師とコミュニティを対象にした意識調査においては、学校とコミュニティ間における、教育環境や、取り組むべき課題、問題解決に向けた話し合いの機会が不十分であるという、学校側とコミュニティ双方の間での自覚が確認されており、保護者の学校運営と教育へ向けた理解の妨げとなっている。
3. 教育省は、コロナ禍の学校休校問題の打開策としてオンライン授業を奨励した。これは地方の学校にも、都心と同レベルの教育機会を儲けることのできる好機ではあるが、地方教員の IT 技術の低さや、ICT インフラの未発達といった問題から、教育格差の是正には至っていないのが現実である。

II. 地域住民を巻き込んだ学校保健 (エコヘルス) 教育普及支援

1)学校保健室システム開発支援

目的：

1. 学校保健室システムの開発を通じて、実践的で現地のニーズにマッチした学校保健教育モデルが構築されること。
2. 元日本財団奨学金受給者であるアルムナイ教員たちが中心となり、保健セクターや地域住民と協力し、持続可能な学校保健システムの運営を出来るようになること。

背景：

1. 青少年の健全な心身の成長に欠かせないのが「学校保健教科」である。カンボジアにおいては、教育青年スポーツ省 (MoEYS)内の体育スポーツ総局が作成した、2007年から 2008 年に製作された小学校保健体育指導要領と保健体育指導書の中に組み込まれた (JICA 草の根事業)。しかし、省内における保健人材の不足から、体育スポーツの部分のみに実施は限定され、保健部分が欠落されたまま、小中学校、および教員養成の現場で使用されている。
2. MoEYSでは、2014年に始まった教育改革の一環として、保健教科を体育とは独立した1科目としてカリキュラムとし、小学校1年から高校3年まで、週に1時間(年間各35時間)の学校保健科授業の実施導入を決定。教育現場における保健啓蒙活動を主に担当していた学校保健局が、授業に向けたシラバス、カリキュラムおよび教科書の作成を担当しており、2025年の授業開始が予定されている。
3. 学校保健教育に関する経験と専門知識を持たない学校保健局は、カンボジア国内で活動する、医療系 NGO に各専門分野についてのシラバス、および教科書の製作を委託しているが、教材の完成および研修計画は難航している。また教科書完成後の学校教員に向けた新カリキュラムの研修については、実施の目処がつかない。
4. 教員養成学校では、東京学芸大学の支援で、小学校および中学校のカリキュラムに対応できる教員を指導する保健専門教官の養成を実施しているが、保健教育を受けた教員が全国の学校現場に派遣されるまでを試算すると最低20年以上の時間を要する。
5. キズナが、2008年より日本財団助成事業として実施してきたプノンペン教員養成校研修生への奨学金給付により、現在2,433名の卒業生(アルムナイ)が地方を中心に教員として活躍している。カンボジア南西部のコックコン州では、全アルムナイの3割を超す750名が若手教員として学校に勤務しており、小学校116校(生徒数17,327名)、中等学校28校(生徒数7,070名)があり、全校にアルムナイが勤務している。
6. キズナでは、2016年10月から、アルムナイ教員による教育の質と学校環境の向上、教育格差是正にむけた教育活動プログラムへの支援を開始。9つの中学校で、アルムナイが中心となり、地域住民と協力して、校内の緑化や環境美化活動を行ってきた。本プロジェクトは、その活動を基盤として2021年より開始されている。
7. また、キズナは過去に、非英語専門教員でも、生徒に英語を教えることができ、また指導することを通じて教師自らも英語会話を学べる「English is Fun」教材(カンボジア公的中学英語教材として採用)を開発した経験を活かし、東京学芸大学と、現地の社会問題を専門とするデザイン会社との共同で、紙芝居とアニメーションによる学校保健テキストを開発中である。

8. カンボジア政府は、2020年3月16日より新型コロナウイルスの感染対策として全土の教育機関に対して長期の休校措置を行った。段階的な公立学校の再開を開始する上で、保健衛生機能の設置を義務づけた学校再開のためのガイドラインを同年8月25日に公布。これに基づき教育省学校保健局は、キズナに全国に配布する学校保健室マニュアルの制作支援を要請、2021年から東京学芸大と共に制作に取り組んでいる。全国の学校には必ずしも保健室は設置されておらず、担当の教員も配備されていない。また、統一された保健室のマニュアルは存在せず、一般的には応急措置をするためだけの役割として認知されている。

I. 教員能力開発支援

1) 教員養成大学の支援

1. 教員養成大学の学生を取り囲む、生活および学習環境が整えられる事により、学生たちはより良い状況で勉学に集中することができる。
2. 世界遺産であるアンコールワットにおける課外研修により、将来教師として自国の文化と誇りを次世代に継承することができるようになる。
3. 正規授業では不足している、英語、芸術、ボランティア等を、課外クラブ活動を通じて学び、社会人としての素養を習得し、将来地元で学校や地域への社会貢献ができる。
4. P-TECの1年生250名と、B-TECの1年生250名が、15回のリテラシー授業と30回の読書時間(50分/1回)を通じて、読書習慣を体得しながら、カンボジアの教育発展に必要な、考える力、読解リテラシー能力を獲得することにより、教員としての資質が高まる。
5. 卒業後、生徒の学力向上の土台となる読書の授業を赴任校で実践できるようになる。

2) アルムナイ教員による教育活動支援

1. 教員として活躍する、教員養成校同窓生(アルムナイ)を中心とした教育事業、研究発表会開催およびアップグレード研修を支援することで、教育分野におけるニーズ・課題の把握と、問題解決に向けた取り組みを進め、地域における教育環境および、教育の質が向上する。
2. 同窓生によるネットワーク強化により、カンボジア全土の教員間の交流、および情報共有が促進され、教育現場の質が向上する。
3. 学校とコミュニティーとの関係が強化され、地域の協力のもと自助努力で教育格差を補完し、民主的で持続可能な教育環境が構築される。
4. アルムナイ教員ネットワークから選抜され、リーダー育成研修に参加している学校長達(チームS)の学校(現在15校)が、将来政府によりモデル校に認可を受け、その学校運営の取り組みが、全国の公立学校に波及する。
5. 国内でリーダー育成研修を受けたチームSの校長達が、さらに隣国タイや、日本といった海外の教育現場での研修を受けることで、より実践的な学校運営の手法を獲得する。
6. アートにおいて特殊技能を持つアート教員達の自発的なP-TECのクラブ活動ボランティア活動を支援することで、教員研修生達の文化的スキルが向上する。

II. 地域住民を巻き込んだ学校保健(エコヘルス)教育普及支援

1) 学校保健室システム開発支援

期待される成果

	<ol style="list-style-type: none"> 1. 政府の学校保健教育計画に沿った、より実務的な教育機能としての保健室運営が、コックオン州の9モデル中学校で実施される。 2. 製作する非保健専門教員でも使用できる紙芝居保健教材を用いた保健活動が、各学校で実施され、全国の公立学校の保健室運営モデルとなる。 3. 学校保健室と地域住民、近隣の医療セクターとの連携が構築される。 4. 制作する保健室運営マニュアルが、MoEYS によって公式に認可され、全国の公立学校に配布される。 5. 東京学芸大学の指導の下、収集される全生徒の身体および体力データの解析および解析結果を活用するためのシステムが構築される。 6. 保健、環境、社会を取り巻くエコヘルスの概念を学び、地域全員が地域の恩恵を学び、より健全な社会開発活動に参加できるようになる。 7. 学校が少額の収入を確保できる学校ハープ園システムの導入により、持続可能な保健教育体制が構築される。 8. 東京学芸大学と共同で、コックオン州モデル9中等学校の生徒を対象にした地域の保健衛生および社会環境ベースライン調査から得た解析結果を下に、政府の教育計画への提言ができる。
<p>プロジェクト概要</p>	<p>I. 教員能力開発支援</p> <p>1) 教員養成大学の支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学ドミトリーと図書館施設の有効活用支援。 2. 大学ドミトリー生徒委員会の設置と委員会運営のための支援。 3. 研修生の読書習慣獲得と読解リテラシー教科の定着を目指したビデオ教材開発、および担当教官（ナショナルトレーナー候補教官）への研修支援。 4. 読解リテラシー教科の効果指標として、パイロット終了時にエンドライン調査を実施し、パイロット授業開始前に実施したベースライン調査との結果比較を行う 5. P-TEC 研修生約 129 名に対し、ユネスコ無形文化遺産であるラコン・コル舞踊とアプサラ舞踊の他に、音楽、絵画、演劇、英会話といった芸術文化課外クラブ活動および、B-TEC 研修生への課外クラブ活動支援の開始。 6. TEC 最終学年 484 名(P-TEC236 名、B-TEC248 名)を対象に、アンコールワット課外研修の実施。 7. 2020 年終了の奨学金事業に変わる教員養成大学への新規支援案件調査の継続。 <p>2) 教員アルムナイ活動支援の実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アルムナイ定期ワークショップ：プノンベン教員養成校アルムナイを対象に、2回の定期ワークショップを開催する。アルムナイを中心に実施している、小学校英語音声教材の開発や、地域別に実施中の中学英語教師から小学校教師への教授法の指導事例や、芸術教員アルムナイ達による教員養成校研修者を対象としたクラブ活動実施の近況、アルムナイ校長を対象としたリーダーシッププログラム、コックオン州でのエコヘルス事業の報告や、その他の課題について、問題解決に向けた議論の場を提供する。 2. リーダーシップ研修：継続されてきた、モチベーションの高い地方の若手アルムナイ校長 15 名（チーム S）を対象としたリーダーシップ研修プログラムを、これまで同様、定期オンライン国内研修を継続しながら、海外（タイ、日本）に招聘し、現地教育機関から学校運営についての事例を学ぶ。また、チーム S の 15 の学校に提供した図書館運営研修のフォローアップを行う。

3. 音声教材を用いた小学校英語パイロット授業：すでに小学校英語教科書と、過去にキズナが制作した English is Fun 教材をベースに開発した小学校英語音声教材を用いて、中学英語アルムナイ教師が、同地域の小学校教員に対して行う、教材使用法のパイロット授業を支援する。
4. 英会話教材アップデート研修：2021年に終了した中等学校英語カリキュラム開発支援であるが、アルムナイを対象とした追跡調査のなかで、研修ニーズが高かった（英国 BBC と英語初学者向けに共同制作した、中学校正規英語カリキュラム）「English is Fun 教材」を、より教師の能力開発に活用できるためのアップグレード研修を実施する。
5. TEC クラブ活動：国内で失われつつある伝統音楽および舞踊を次世代に残すため、モチベーションの高い芸術科アルムナイと共に、教員養成校研修生を対象とした芸術クラブ活動を行うと共に、将来、非芸術専門教員でも授業のできる、教材とプログラムを考案する。また、教員養成大学副学長の依頼で English is Fun 教材を用いた英会話クラブを新規設置する。
6. フィールド調査：潜在しているモチベーションの高いアルムナイ教員の人材発掘調査を行い、教育環境格差撤廃を目指した教育プログラムを共に考案し実施する。

II. カンボジアにおける学校保健教育の普及プロジェクト

1) 学校保健室システム開発支援

1. 非保健専門教員用学校保健教材（紙芝居、アニメーション）の開発：中学 1 年生用 7 ユニットと 2 年生用 7 ユニットの教材に引き続き、3 年生用教材 7 ユニットのアニメーション制作に取り組む。内容の編集は東京学芸大学が担当。学校で使用する紙芝居については、パイロット授業で訂正箇所を修正して完成させる。
各紙芝居からは、QR コードを活用して、同題材のアニメーションや用語集にリンクしており、教師や生徒個人の電子機器で閲覧できる仕組み。2022 年 12 月にアニメーションは完成予定。
2. 紙芝居を使ったパイロット授業の実施：コックコン州の 9 校の中学校で実施中の Grade7（中学 1 年）の、紙芝居授業のオンライン研修とパイロット授業を継続（7 月終了）。研修には学校長と担当教師が参加し、授業は学校長の監督の元で担当教師が行う。パイロット期間終了後、11 月の新学期までに教材内容の改訂作業を行う。
3. 身体測定（身長、体重、視力、聴力）データのマネージメント：始業時と中期の 2 回実施。各学校のデータを、コックコン州地方教育局を中継し、P-TEC にて回収。東京学芸大学の指導のもとで解析を行い、MoEYS 学校保健局にレポートを提出し、次年度の学習計画に反映するまでの仕組みをモデル化する。
4. 保健室運営マニュアルの制作：保健室が、単なる医務室ではなく、医療セクターとの連携や、紙芝居教材を活用して地域への保健情報センターとして機能するための「保健室運営マニュアル」を東京学芸大学と共に制作する。マニュアルは学校保健局と共に編集し、全国の公立学校で使用できるような仕組みを作る。
5. 学校保健委員会を設置：学校長・保健室担当教師・地域住民・保健セクター・生徒代表者で、定期ミーティングを重ね、地域のエコヘルスを高めていく取り組みを支援する。
6. 東京学芸大学とコックコン州モデル中等学校の生徒 1,309 名（男子 638 名、女子 671 名）を対象に、保健環境や保健意識についてのベースライン調査を実施する。
7. 持続可能なエコマネージメント運営として、学校菜園を整備。植林、野菜の栽培、地域の有用植物の見本園造園。また、保健室システムの運営を維持するために企業の協力のもとで始めた学校ハーブ園システムによって資金調達モデルを構築する（目標 100-300 ドル/年）。

--	--

活動の周知	<p>出版物、メディア報道、会議資料など、プロジェクトの成果の周知方法を簡単に述べよ。</p> <p>I. 教員能力開発支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員養成学校での定期イベントを通じて、教育関係者、潜在的支援者、メディア等に対して本事業の周知をはかる。 2. アルumni定期ワークショップ開催により本事業の周知をはかる。 3. 各地でのワークショップおよび開催イベントを通じ、本事業の周知をはかる。 4. HP を通じて、教育関係者、潜在的支援者、メディア等に対して本事業の周知をはかる。 <p>II. カンボジアにおける学校保健教育の普及プロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ホームページや冊子で教育関係者、潜在的支援者、メディア等に本事業の周知を図る。 2. 定期開催の教員アルumni会議で事業の進捗と成果を共有する。 	
実施地	カンボジア 26 都市	
プロジェクト予算 (単年)	748,000 米ドル	プロジェクト実施機関 開始： 2022 年 5 月 1 日
日本財団への申請額	748,000 米ドル	終了： 2022 年 12 月 31 日
その他助成	前年度繰越金 米ドル	助成金支払い希望日： 2022 年 4 月：〇米ドル 2021 年 8 月：〇米ドル

プロジェクトの独自性、効果、評価

本年度に実施される活動だけでなく、プロジェクトの全期間に関して以下の欄を記入せよ。

プロジェクトの画期的・独創的な側面	<p>I. カンボジアにおける教育の質向上プロジェクト</p> <p>1. <u>教員養成大学への支援</u></p> <p>(1) KIZUNA を主体として、卒業生（各出身地の教師）とのネットワークが確立される。</p> <p>(2) 研修生と KIZUNA の間に信頼関係が築かれ、今後の KIZUNA の他の活動を効果的に実施できるようになる。</p> <p>(3) 適切なニーズに対応することで、新たな初等中等教育の改善に繋がる活動に発展する。</p> <p>2. <u>アルムナイ教員活動支援</u></p> <p>(1) 元奨学生の教員（アルムナイ）達が、教育現場の経験を活かし、教育の質向上と環境整備に向けた研修、および独自で発案する教育プログラムを実施する。</p> <p>(2) カンボジアでは初めてとなる教員によるネットワークであり、学校とコミュニティによる学校開発モデルである。</p> <p>II. 学校保健教育の普及プロジェクト</p> <p>1. 元日本財団奨学生のアルムナイ教員達为中心となり、地域住民や保健セクターと協力し、実践的な保健教育システムを構築する。</p> <p>2. 非保健専門教員たちでも授業実施が可能な保健教材の開発。</p> <p>3. 保健を専門としないアルムナイ教員によって、これまでカンボジアでは普及していなかった保健室が正しく管理運営される。</p> <p>4. キズナ制作の保健室運営マニュアルが全国の学校で公的に活用される。</p> <p>5. 学校ハーブ園の運営により、地域の有用資源の知識を得ると共に、収益により持続可能な保健システムの維持が可能になる。</p>
-------------------	--

プロジェクトから期待される効果・長期的影響	<p>I. カンボジアにおける教育の質向上プロジェクト</p> <p>1. <u>教員育成支援の実施</u></p> <p>(1) 教員養成校学校にて安定的に2年間の教職課程を修了できるようになり、</p> <p>(2) カンボジアにおける教育の質の向上につながる。</p> <p>(3) 養成期間中勉学に専念することが可能となり、質の高い教員の育成が望める。</p> <p>2. <u>アルムナイ教員活動支援</u></p> <p>(1) アルムナイ教員達のネットワーク強化で、教員同士の交流が生まれ、課題共有や問題解決など、教育の質向上に向けた機運が高まる。</p> <p>(2) アルムナイ教員同窓生によるネットワークおよび学校とコミュニティとの関係強化のモデルを構築することにより、カンボジア全土の教員同士の交流が促され、現場の教師達による自発的な活動が全国に生まれるためのモデル事業となる。</p> <p>II. 学校保健教育の普及プロジェクト</p> <p>(1) 学校における保健教育が実施されるようになり、国力増進の要である青少年の心身育成の重要性を、カンボジア政府が理解する。</p> <p>(2) 学校保健室と医療セクターの連携が強化され、学校現場におけるリスクマネジメントが強化される。</p> <p>(3) 児童・生徒の身体および体力データが掌握されることにより、保健体育計画が改善される。</p>
-----------------------	---

	(4) ハーブ園運営で得られる収入で、持続可能な学校保健システムが運営される。
評価方法・検証手段	<p>評価方法、客観的に証明可能な指標、プロジェクトの成功を測るためのデータなど、プロジェクトの成果や影響をどのように評価するかを述べよ。</p> <p>II. カンボジアにおける教育の質向上プロジェクト</p> <p>1. <u>カンボジアにおける教員育成支援の実施</u></p> <p>(1) 教員養成学校を卒業し、教師となった研修生を訪問し、インタビュー等を通して、事業効果を検証する。</p> <p>(2) 教員養成学校研修生を対象に事業効果を検証する為のアンケート調査を実施する。</p> <p>(3) 研修生及び養成学校の教官を対象にインタビューを行い、事業効果を検証する。</p> <p>2. <u>アルムナイ教員活動支援</u></p> <p>(1) アルムナイのいる学校を訪問し、インタビュー等を通して、事業効果を検証する</p> <p>(2) アルムナイ、地域住民を対象に事業効果を検証する為のアンケート調査を実施する。</p> <p>II. 学校保健教育の普及プロジェクト</p> <p>(1) モデル学校を訪問し、教師、保護者、生徒へのインタビュー等を通して、事業効果を検証する。</p> <p>(2) モデル学校を訪問し、教師、保護者、生徒を対象に事業効果を検証する為のアンケート調査を実施する。</p> <p>(3) 事業研修に関わる、教官実習生、教育省学校保健局、および NGO 団体職員を対象にインタビューを行い、事業効果を検証する。</p> <p>(4) キズナ制作の保健室マニュアルが MoEYS の手で全国の学校に配布される。</p>

複数年プロジェクトに関する情報のみ：プロジェクト実施期間6年の2年目。

プロジェクト実施期間	2020年1月1日～2025年12月31日	
プロジェクト予算総額	日本円/米ドル/ユーロ 4,863,600 米ドル	日本財団への助成申請額 4,863,600 米ドル

実施スケジュール

プロジェクト活動	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目
プロジェクト期間	2020年 1月1日 ～2020年 12月31日	2021年 1月1日 ～2022年 4月30日	2022年 5月1日 ～2022年 12月31日	2023年 1月1日 ～2023年 12月31日	2024年 1月1日 ～2024年 12月31日	2025年 1月1日 ～2025年 12月31日
プロジェクト年間予算	967,000 米ドル	719,200 米ドル	748,000 米ドル	809,800 米ドル	809,800 米ドル	809,800 米ドル
	教員養成	教員養成	教員養成	教員養成	教員養成	教員養成

プロジェクト内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員養成校への奨学金、研修提供 アラムナイ アップグレード研修、教育事業 英語 ・ 高校英語教科書作成 ・ 高校教員養成校への研修実施 学校保健 ・ 学校保健教材開発と授業実施 ・ 保健室開設 ・ 学校ハーブ園 (コッコン州中学 9 校) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員養成校への研修提供 アラムナイ アップグレード研修、教育事業 学校保健 ・ 学校保健教材開発と授業実施 (コッコン州中学 9 校) ・ 保健室開設 ・ 学校ハーブ園 (コッコン州中学 9 校) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員養成校への研修提供 アラムナイ アップグレード研修、教育事業 学校保健 ・ 学校保健教材開発と授業実施 (コッコン州中学 9 校) ・ 保健室開設 ・ 学校ハーブ園 (コッコン州中学 9 校) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員養成校への研修提供 アラムナイ アップグレード研修、教育事業 学校保健 ・ 学校保健教材開発と授業実施 (コッコン州中学 9 校) ・ 保健室開設 ・ 学校ハーブ園 (コッコン州中学 9 校、プノンペン校 3 校 + 小学 22 校) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員養成校への研修提供 アラムナイ アップグレード研修、教育事業 学校保健 ・ 学校保健教材開発と授業実施 (コッコン州中学 28 校/全校) ・ 保健室開設 (コッコン州中学 28 校、小学校 116 校/全校) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員養成校への研修提供 アラムナイ アップグレード研修、教育事業 学校保健 ・ 学校保健教材開発と授業実施 ・ 保健室開設 (プレアビヒア州中学 14 校、小学校 10 校)
	英語：終了 学校保健：コアモデル校づくり	学校保健：コアモデル校づくり	学校保健：コアモデル校づくり 学校保健：	学校保健：マニユアル化	学校保健：マニユアル化 拡散期	学校保健：他州での実証トリアル。政府への移譲
プロジェクト予算	米ドル 4,863,600 米ドル	日本財団への助成申請額	米ドル 4,863,600 米ドル			
実施地	カンボジア 26 都市					